

平成 20 年度試験研究成果書

区 分	普 及	題 名	イブキジャコウソウ栽培マニュアル		
[要約] イブキジャコウソウを活用した雑草防除法の早期普及拡大により、本県稲作の省力・低コスト化と農村環境の向上に資するため、現地で容易に増殖・植栽が出来るよう、栽培マニュアルを作成した。					
キーワード	イブキジャコウソウ	水田法面管理	マニュアル	企画管理部	農業経営研究室

1 背景とねらい

本県は、中山間地域の水田が多く、基盤整備時に長大法面が形成され、法面の除草作業が大きな負担となっている。近年は、農業従事者の高齢化と担い手不足が深刻化し、全県的に水田法面除草作業の軽減が求められている。

また、平成 19 年度から実施されている農地・水・環境保全向上対策の中の活動内容にもグラウンドカバープランツによる法面被覆も取り上げられている。イブキジャコウソウは寒冷地の雑草抑制に効果があることが確認されていることから、イブキジャコウソウを活用した雑草防除法が報道されて以来、大規模農家、集落営農組織等の生産者をはじめ、農業関係機関団体から、早期にイブキジャコウソウを植栽したい希望が多く寄せられている。

このため、現地で容易に増殖・植栽が出来るよう「イブキジャコウソウ栽培マニュアル」を作成し、本県稲作の省力・低コスト化と農村環境の向上に資する。

2 成果の内容

イブキジャコウソウの育苗と現地植栽の実証技術を体系的に整理するとともに、写真を用いて分かりやすく解説した栽培マニュアルを作成した。

(1) 挿し木増殖

挿し木床準備、挿し穂の採取方法、挿し穂の調整方法等

(2) 育苗管理

ハウス育苗の管理方法（温度管理、水管理、遮光、肥培管理）

(3) 植栽管理

定植前の準備、定植間隔、灌水、追肥、除草の方法

(4) 栽培ごよみ

時期別作業内容と予想される被覆度の推移を図で表示している。

3 成果活用上の留意事項

- (1) イブキジャコウソウは木本類に属し、草丈が高いため、水田畔の利用には適さない。
- (2) 本県の多様な自然条件下における生育特性を把握するとともに、県内への早期普及を図るため、「イブキジャコウソウ現地実証圃」を設置する。同実証圃の設置を希望する場合は、農業研究センターから母株を提供するので、所長あてに実証圃設置申込書を提出すること。なお、母株を提供する範囲は、岩手県内に限る。

4 成果の活用方法等

- (1) 適用地帯又は対象者 県下全域
- (2) 期待する効果
 - ア 圃場・水路・農道法面の除草作業の省力化
 - イ 農村景観・環境の改善

5 当該事項に係る試験研究課題

(H20-40) イブキジャコウソウによる基盤整備直後の水田法面管理実証 [H20-21]

6 参考資料・文献

- (1) 平成 17 年度試験研究成果「グラウンドカバープランツとしてのイブキジャコウソウの法面被覆効果」(指導)
- (2) 平成 19 年度試験研究成果「グラウンドカバープランツとしてのイブキジャコウソウによる農地法面の植生管理」(普及)

イブキジャコウソウ

シソ科ジャコウソウ属 (学名: *Pereskia salsola*, 学名: *Thymus quercifolius*)



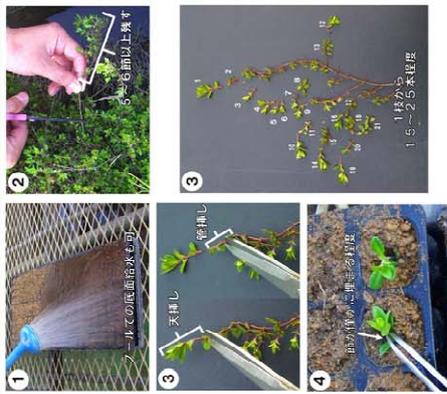
栽培マニュアル

日本全国の山野に自生するシソ科の多年草で、耐暑性、耐寒性に優れ、地面を這うように育ちます。花色はピンク色で7月頃開花し、葉に艶と良い香りがあります。

挿し木増殖

挿し木増殖は、探穂株が萌芽を開始する4月下旬以降(5月下旬まで)に実施(成苗率90%以上)します。伸長している枝の上位5~6節を挿し木として使用し、天挿し(萌芽+1節)または管挿し(1節)とします。

- 挿し木床の準備**
200穴のセルトレーに、ソイルフレンド等の市販の育苗用培土を充填し、十分に潑水します。
1トレイで8㎡分の面となります(1㎡当たり25株)。
- 挿し木の採取**
萌芽を開始し、落葉していない枝を、上位5~6節以上挿し木として取り取ります。1本の枝から、15~25本程度の挿し木を採ることが可能です。
- 挿し木の挿入**
天挿し、管挿しともに、1節以上挿して長さ3~5cm(節下1cm程度)程度に調整します。
- 挿し木**
予め挿し木床に挿し木を空けておき、節が腐か埋まる程度の深さで挿し木します。
一つのトレーが腐りついたら、土が乾いたら育苗プールに並べ、土が落ちるくよに頭上から水を潑水します。



育苗管理

挿し木から定植まで、1ヶ月程度、ビニールハウス内で育苗することになります。挿し木後、7~10日間はプール育苗とします。

- 温度管理**
昼夜を問わず、ハウス内の最低気温は15℃以上を確保します。(この時期であれば、特に保温は必要ありませんが、場合によっては、保温シートを使用します。) また、最高気温が25℃以上になるような場合には、ハウスサイドを開けるなど換気を行ってください。
- 水管理**
プール育苗では、水深がセルトレイの高さの1/2程度となるように、水位が下がった都度、水を補充します。 プールから苗を取出した後は、朝夕1回程度、培土の乾き具合に応じて圃上潑水を実施します。
- 遮光**
プール育苗期間中は、遮光網を使用し、朝時40~60%程度の遮光を行います。その後、遮光網を除去し、十分に光を当てていきます。
- 肥料管理**
市販の培土を使用する場合は、定植までの1ヶ月間で特に追肥の必要はありません。葉色が濃いようであれば、液肥で追肥します。 枯れた葉などは、そのまましておくと株全体が枯死する場合がありますので、適宜除去するようにします。



7 試験成績の概要(具体的なデータ)

イブキジャコウソウ栽培マニュアル

植栽管理

定植1年目は、潑水や追肥、除草作業が必要となります。2年目以降は、被覆度合いによって除草作業が必要となります。

① 定植準備(除草)

定植予定日の2~3週間前を目安に、植栽予定地を前木跡に登録のある除草剤を使用基剤に液状散布します。水路近くに使用する場合は、水路に除草剤が流出しないよう留意しましょう。

枯れた雑草は抜き取りなどとして、定植時までに圃場が見えるようにしておきます。

② 定植

採取が形がされ、トレイから苗が容易に抜き取れるようになる。挿し木後1ヶ月位が定植時期となります。 敷植距離は2.0m×2.0m程度とし、1㎡当たり25株の苗を定植します。

圃場の土壌への定植になりまますので、電動トラクター等で植穴を開けると効率的です。

③ 潑水

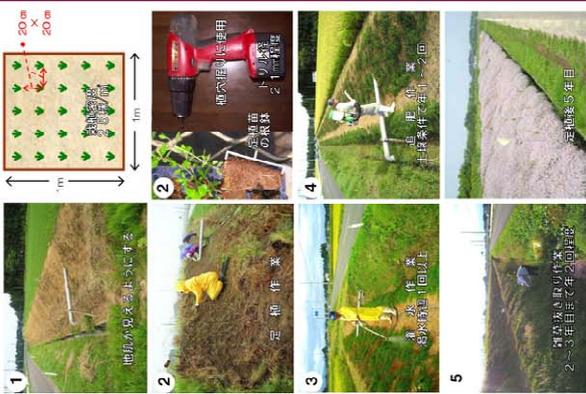
定植1年目は、8~9月の潑水期間には週1回以上(乾燥状態に応じて2~3回程度)の潑水が必要となります。2年目以降は、地表が80%程度被覆されるため、潑水の必要はありません。

④ 追肥

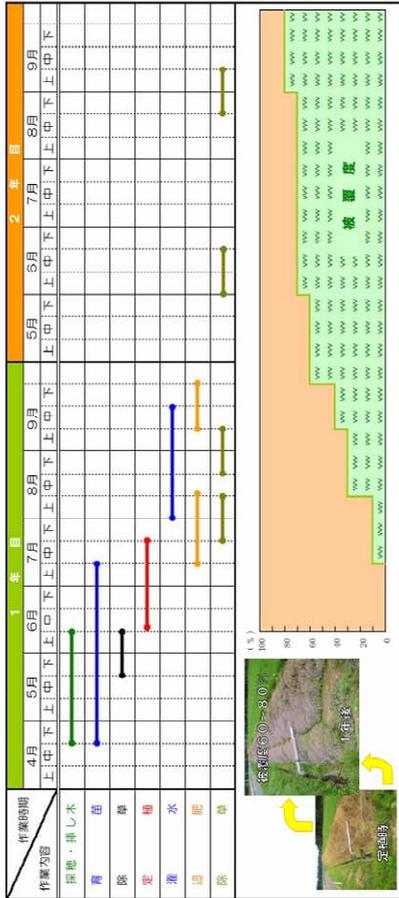
圃場土壌では、1年目に1~2回程度の追肥が必要となる場合があります。葉色や伸長具合を見、化成や液肥などの肥料や有機肥(糞水糞)を散布します。

⑤ 除草

定植後2年間は、年2回程度の雑草の抜き取りが必要となります。被覆度合いによっては、3年目にも年1~2回程度の抜き取りを実施します。



栽培ごよみ



【問い合わせ】



岩手県農業研究センター 企画管理部 農業経営研究室
〒024-0003 岩手県北上市成田 20-1 TEL: 0197-68-4415 FAX: 0197-68-2361

※ 農業研究センターから母株を入手する場合には、「イブキジャコウソウ圃場実証圃設置要領」により、実証圃設置申込書の提出が必要となります。